

平成11年度漁業生産の担い手確保・育成事業実施状況

課	課題	実施時期	実施場所	対象	対象	協力者	経過及び成果	観点及び今後の課題
青年漁業者育成事業 青壮年・女性漁業者交換大会	青年漁業者育成事業 青壮年・女性漁業者交換大会	平成12年 1月13日	水産会館 5階大ホール	漁業者 青壮年・婦人部 市町村	漁業者 青壮年・婦人部 市町村	関係団体 関係機関等	<p>漁村青壮年・女性漁業者及び研究グループ等の自主的な活動実績を発表し、相互の知識の交流、活動意欲の向上及び成果の普及を図ることにより、今後の漁村社会の発展に寄与することを目的に開催</p> <p>平成11年度の発表者は下記の方々でした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンクリート魚礁を利用した一本釣漁業 八重山漁協一本釣研究会 ……………橋本貴臣 2. 輝く美島を我々の手で 久米島漁協婦人部 ……………玉城直美 3. 奥武島の活性化を担ういまいゆ市場 玉城村漁業組合婦人グループ ……津波古啓子 <p>診査の結果八重山漁協一本釣研究会の橋本貴臣さんが最優秀賞に輝き全国大会へ出場した。</p> <p>本県の水産業をめぐる状況は、輸入水産物の増大や漁価の低迷、乱開発などによる赤土などの漁場環境破壊、漁業資源の減少、そして後継者難など多くの問題を抱えている。近年、漁船の近代化、漁具漁法の進歩により漁獲圧力が拡大し、資源の再生産が追いつけなくなり、魚は小型化し水産資源は目に見えて減少してきた。資源減少の責任は漁業者の獲り過ぎだけでなく、工場や生活排水、埋立や河川の汚れなどの漁場環境悪化、それにより餌で見境なく獲ってゆく大勢の遊漁者・などの結果でもある。ただ我々が性能の良い漁船や漁具を使用するようになり、先獲りの競争を展開してきた事は事実であり、このまま放置すれば沿岸漁業の将来は行き詰まり状態となるのは明白である。資源が有限である以上資源の再生産を図り有効に利用するには禁漁期の設定、漁具、漁法の制限など「資源管理漁業」に転換するしかない。これは水産物を食糧とする国民の為であり、同時に我々の為でもある。このためには「若い漁業者が中心となった自主的な取り組み」が土台とならなければならない。こうした情勢にかんがみ、「管理型漁業について」どう対応し、調整解決生かすかについて、それぞれのパネリストの立場で、意見を述べてもらおうとともに、フロアの皆さんと意見交換しあい、21世紀に向けた魅力ある沿岸漁業の確立を図りたい。</p>	
交流学習事業 シンポジウム (資源管理型漁業について)	交流学習事業 シンポジウム (資源管理型漁業について)	平成11年 9月3日	水産会館 5階大ホール					

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	要点及び今後の課題
技術交流 モズク養殖（品質管理）技術 交流会	平成11年 5月31日 ～6月1日	伊平屋村漁業 協同組合	今帰仁漁業 協同組合	伊平屋漁協 協同組合	養殖現場において収穫方法、収穫前の雑藻除去の習得、モズクの洗浄及び選別方法、モズク加工場の加工工程等学習した。	いかにして地域の漁業を振興するか今後の重要な課題である
パヤオ技術交流会	平成11年 8月27日	沖縄市漁協	読谷漁協組合員 読谷漁協職員 読谷村役場	沖縄市漁協浮魚 研究グループ 沖縄市役所	パヤオ直売店の経緯・読谷漁協技術交流の経緯・パヤオ直売店の現状報告を行った後質疑応答、実践交流では夜間創業の実践交流を行った。	日程：時間帯等改善の余地あり。
ウニ・アワビ垂下式養殖視察	平成11年 12月13日 ～15日	佐賀県	石川漁協具志川 支所 浦添・宜野湾漁協	佐賀県玄海水産振 興センター 鎮西漁協名古屋岡 支所 佐賀県栽培漁業七 センター 佐賀県有明水産振 興センター	佐賀県のウニ・アワビ垂下式養殖を視察するため、最初に佐賀県玄海水産振興センターへ。佐賀県漁業の概要説明を受けた後、鎮西漁協名古屋支所ではウニ・アワビの垂下式養殖を視察した。名古屋岡ではウニ・アワビの餌となる藻類が豊富で餌代がかからず、出荷は特定の業者に決まった量を出して価格を安定させているとのこと。また、養殖は各自に責任を持たせて行っており、昔は協同で行っていたが今の方法が良いとのことであった。次に隣にある栽培漁業センターにてウニ・アワビの種苗生産について説明を受けた後、施設内を見学した。	名古屋支所では自然物の餌が豊富であること、人数が少なく管理がしやすい等の有利な条件がそろっている中で、沖縄では養殖方法を検討する必要がある。
新技術定着試験 ヒレジャコ養殖試験	平成11年 5月～	今帰仁漁協	今帰仁漁協組合員	水試八重山支場	大きさにばらつきがあり、大グループ（300個）と2つの小グループ（600個）にわけ、ケージへの移植後、1月間は小グループで死亡率が多く見られたが、9月中旬現在生残数は大グループ約200、小グループ2区で3～400位とで、3区は全滅した。	
技術改良試験 クビレオゴノリの果胞子 越冬保存試験	4月～3月	本部・羽地・瀬長	生産グループ	栽培センター 本部・羽地漁協 我部指導漁業士 糸満漁協瀬長支部 高良支・同与根支 部国吉氏 今帰仁漁協モズク 生産部会	結果・タンク保存による発芽、生育状況・・・ 一時期にみられた雑藻類の繁殖が7月以降自然剥離により未生育の状況が続いたが、水温の変化が見られる8月後半から前期見られた種類の雑藻と違う藻が繁殖し、水の管理が難しくなる。10月21日、果胞子保存コレクター回収、保存管理に問題があり、25コレクターに発芽、生育が確認されただけに問題が確認されたことから次年度への展開が期待される。	・次年度は、流水+コレクターの砂着底保存を試みたい。 ・海中では、同保存種苗で成功している。 ・次回は、採苗時から濾過海水を称る。

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	題点及び今後の課題
トビウオ2艘曳漁獲試験	9月10日	糸満沖	糸満漁協	糸満漁協組合員	朝6時0分糸満港出港、現場到着後7時30分～8時55分までの55分間、毎年3、5ノットで曳航後揚網。網が破損していたため漁獲物はツマリトビウオ（ブーカー）34尾、アヤトビ1尾であった。春の大型トビウオを対象にするための程度のめど付けができた。	曳航方法の検討が必要。
担い手確保総合対策推進事業					議題 1) 平成11年度漁業生産の担い手確保、育成事業実施状況について	
本島地区若い漁業者確保推進会議 (委員10名中7名出席)	平成11年 12月3日	普及所会議室			2) 平成12年度漁業生産の担い手確保、育成事業計画について 3) 平成11年度漁業士会活動状況及び12年度計画について 4) 平成11年度若年・女性漁業者交換大会及び、シンポジウムの実施状況及び、平成12年度開催の検討について	
沖縄県若い漁業者確保推進会議 (委員16名中9名出席)	平成11年 2月25日	〃			意見 1) 会議の案内は所属組合の長にも出してほしい。 (漁業士会も同様) 2) 委員の意見を県サイドまであげてほしい。 3) 漁業士が何のためにあるのか、その位置づけ等が知りたい 4) 漁業士会の活動資金は、旅費が多すぎるのではないか 5) 各漁協組合員の年齢調査等、把握する必要があるのでは	

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	題点及び今後の課題
少年水産教室 固定式底刺網体験学習	平成11年 8月10日	今帰仁漁協	兼次小学校	今帰仁村 村教育委員会 村青少協	平成11年度少年水産教室は、今帰仁村教育委員会、今帰仁漁協の強い要望により、小学生を対象に「固定式底刺網の体験学習をテーマに、今帰仁漁協、今帰仁村教育委員会、今帰仁村、普及所の4者打ち合わせを行った。漁協婦人部、村青少協も協力するということで話を進めた。対象の村立兼次小学校との調整は教育会、マスコミ手配、進行、総括を普及所で行った。	
漁村高齢者能力活性化事業 トコブシの籠養殖	平成11年9月 ～12年3月	宜野湾	養殖グループ	水産試験場 漁 協	成長については、養成開始から3ヶ月後の1月20日にはA区が42.4mm・B区が43.3mmで両方とも成長差はないが、ややB区が良い傾向にある。4ヶ月後の2月24日には縦型、横型シエンルター別の殻長測定の結果は49mmの大きさ先月より6～7mmも伸長した。 留まりをみると、斃死はほとんどなく、籠の閉閉による損傷あるいは誤って海中に落とすことで歩減りがある程度である。	
漁業士養成・認定事業 漁業士認定	4月～3月	県 一 円	漁業者	市 町 村 漁 協	年漁業士 平成11年度は推薦がなく、青年漁業士の認定はなかった。 導漁業士 平成11年度認定漁業士	

氏 名	年 齢	所 属 漁 協	備 考
山城 定 継	45才	国 頭 漁 協	新
与 座 嘉 雄	41才	久 米 島 漁 協	青年漁協士

認定者の実績、人柄については平成11年度発行「水産普及所だより45号」を参照して下さい。

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	題点及び今後の課題
漁業士研修 漁業士九州ブロック研修	平成11年 7月28日 ～29日	大分県	漁業士	水産庁 各県	28日・大分県海洋水産研究センター田森研究員による「漁業と環境」の講演後、「環境保全と漁業」のテーマでパネルディスカッションを行った。沖縄県からは本部漁協我部政祐が発表。全体的にゴミ問題の話が中心であった。 29日・水産庁宇賀神課長補佐による「水産業改良普及事業及び漁業士制度の今後の展開」の講演後、各県普及員による漁業士活動の実績と予算報告。沖縄県は他県に比べ実績・予算ともに少なかった	今回の研修は本県からの出席漁業士は1名で、他県は2名以上出席している。次年度から2名以上出席を要望する。
普及職員連絡協議会の開催	年3回	普及所	普及職員		第1回 平成11年6月24日～25日 平成11年度重点普及課題についての役割確認 他4議題 第2回 平成11年10月4日～5日 平成12年度漁業生産の担い手育成事業計画の検討 他4議題 第3回 平成12年3月27日～28日 平成12年度予算について 他4議題	
生産者会議 魚類養殖生産者会議	平成12年3月 1日	本部漁協	養殖グループ 市町村水産担当者 漁協職員	水産振興課 本部町役場 本部漁協	1. 平成11年度における魚類種苗の生残率について（普及所） 2. 平成11年度における県内の魚病発生状況について（水試本場） 3. 持続的養殖生産確保に関することについて（水産振興課） 4. その他（栽培漁業センター）	

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	題点及び今後の課題
モズク養殖業振興協議会臨時総会及び生産者代表者会議	1月25日	水産会館	生産部代表者	県漁連、水産振興課、水改本部駐在	・総会内容、販売可能量調査結果にもとづく 1) 目標生産量の設定及び産地漁協への割当 2) 塩蔵製品の最低買取価格・現業価格の設定等事務局案が承認された。引き続き、生産者代表者会議が行われた。会議は生産者代表による実践事例報告の前に「今期糸モズクの発芽状況について」・「駐在瀬底 「良外加工業者からの聞き取り調査結果について」・「水産振興課玉野覇主任技師から情報提供があり、その後、実践事例報告と意見交換が行われた。	・主催：沖縄県モズク養殖業振興協議会 ・平成12年度目標生産量は1万3千トン
クビレオゴノリの養殖講習会	3月13日	センター会議室	生産グループ	市役所・漁協	・北部地域の特産化と複合経営のメニユー化を目的に実施した。 ・講習内容は、1) 母藻の選定 2) 採苗施設 3) 採苗時期・期間 4) 沖出し作業(管苗方法・低質の条件等) 5) 養殖方法(収種方法・適採回数等)について行う。	屋我地支部(生産グループ)参加人数11名
同上	3月15日	糸満漁協会議室		市役所・漁協	上記内容で実施した。糸満地域については産地与根の埋立が進んでおり、天然産の消失が心配されることから、糸満側への種石移植による増殖を図りつつ、養殖の可能性について講習。	喜屋武支部を主体に婦人部組合員に広く呼びあける。 参加人数20名
モズク養殖技術等講習会	9月17日	八重山漁協	養殖研究会	漁協・支庁普及員	・平成11年度八重山漁協「モズク養殖研究会」総会終了後に「モズク種保存について」学習会を行う。 ・3年前に12名の会員でスタートしたが、総会当日は、21名の参加があり、来シーズン新会員として参入される ・役員改選があり、新快調に、大城兼一(小浜)副会長に、王城勝行(石垣)が選出された。	
ヒトエグサ養殖講習会	8月31日	知協・奥武支部	養殖グループ	本所普及員	・本所普及員との協同作業の一環として「ヒトエグサ養殖の基本的手順」について、講習会を行う。	
漁家担当生改普及員研修会	6月17日	本部漁協会議室	漁家担当生改普及員	本部漁協	・平成11年度漁家担当生活改良普及員研修会が本部漁協会議室において開催された。 ・参加者は、生改普及員6名(北部1名、中部1名、南部2名、宮古1名、八重山1名)営業推進課総括専技1名、主任技師1名が出席し、研修の指導にあたる。駐在は瀬底が出席した。 ・研修初日は総括専技等による研修と講演があり、二日目は当漁協加工場において、ソダイカ加工の実技研修が行われた。	・講演依頼が「高齢化対策と有用海藻類の利用について」講話を行う。